

## 時を刻む：タイムカプセル埋設式 *A Moment in Time*

August 4, 2021

By Airman 1st Class Tyrone Thomas  
374th Airlift Wing Public Affairs

第374空輸航空団と航空自衛隊作戦システム運用隊の幹部は7月29日、「タイムカプセル埋設式」に集い、横田基地が2020年に直面し、乗り越えたさまざまな困難を振り返った。

今回のタイムカプセル埋設は、横田基地と航空自衛隊が将来を見据え、パートナー国間の強力な連携を通じて目標を達していく一つの機会となった。

第374空輸航空団司令官アンドリュー・キャンベル大佐は、「このカプセルプロジェクトの計画は2020年初めに始まり、オリンピック・サルーン委員会は当初、横田基地の東京2020オリンピックへの参加を記念するものとして、このタイムカプセルを構想していた」「しかし、COVID-19パンデミックの拡大によるオリンピックの延期に伴い、このタイムカプセルも2020年から2021年に延期されたことは、後世により大きな意味を持つことになった」と語った。

横田基地のオリンピック・サルーン委員会は、第374空輸航空団の部隊やミッションパートナーからタイムカプセルに納めるさまざまな物品を集め、そしてコロナ禍の生活や、パンデミックの中でオリンピックを開催する奮闘を、将来のコミュニティメンバーに伝えることにした。

タイムカプセルには、中隊のパッチ、ワクチン接種証明書フォーム、COVID-19ワクチンのバイアル空瓶、そして「COVID-19で予定が狂わされたランチ」と文字が刻まれたランチなどが納められた。

「タイムカプセルに納められた物の中で、特にランチは注目に値するものだった」「ランチは、災難を意味する古典的なフレーズであると共に、横田基地の兵力の中心である整備士のシンボルでもある」と第374空輸航空団レスリー・ジョーンズ史料部長は述べた。

第374空輸航空団施設中隊は、「2021年に開催された東京2020オリンピックを記念し、第374空輸航空団は2021年7月29日、ここにタイムカプセルを埋設した...このタイムカプセルの開封は、次に日本で開催される夏季オリンピックの開催式の時」と刻まれたプレートのカプセルを付け、封印した。

このタイムカプセルは、将来の世代がタイムカプセルを開封した時に過去を振り返り、この激動の時代の生活がどんなものであったかについて垣間見る機会をもたらすだろう。

